

3

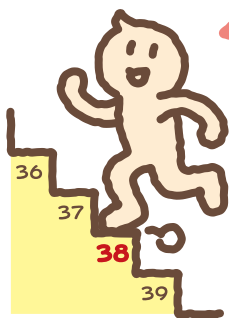
他の財政指標から ふじさわの財政状況を見てみよう

自治体の財政状況を見る財政指標の中から代表的な財政指標を取り上げて、藤沢市の財政状況を見てみましょう。下表に示した4つの財政指標は、財政基盤を見るものと財政構造を見るものの代表的なものです。

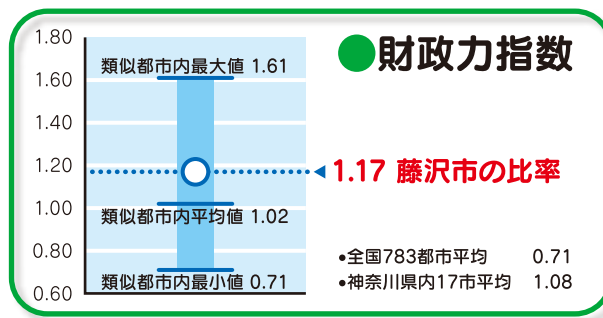


財政指標	藤沢市	順位			平均値		
		県下 17市中	類似都市 32市中	全国 783都市中	県下 17市	類似都市 32市	全国 783市
財政力指数	1.17	6	7	38	1.08	1.02	0.71
公債費比率(%)	7.6	3	6	50	10.3	11.4	15.1
自主財源比率(%)	74.4	6	7	50	71.4	68.7	57.7
経常収支比率(%)	85.0	2	3	63	91.0	91.4	92.5

※平成19年度決算に基づくもの



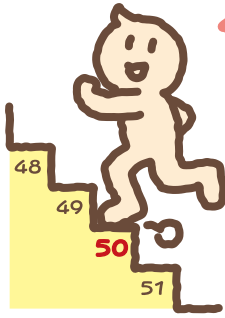
★財政力指数
1.17は全国で
第**38**位!



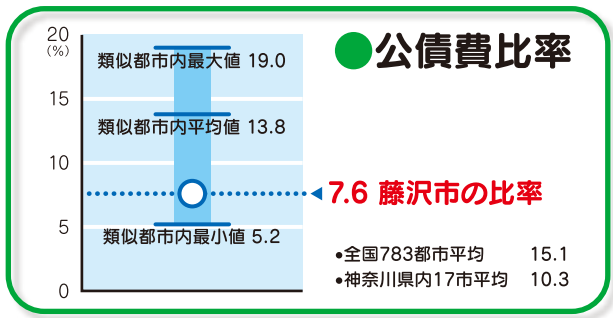
財政力指数は、標準的な行政活動を行うために必要な財源をどの程度自力で調達できるかを見る指数です。指数が大きいほど自治体の財政力が強いということになります。1.00以上であると国から普通交付税が交付されない不交付団体となります。

藤沢市の財政力指数は1.17で、全国783都市中では第38位に、県下17市では第2位にランクされます。本市はこの財政力指数が1.00以上であるため不交付団体となっています。平成20年度の不交付団体数は、全国1,788市町村のうち177市町村です。





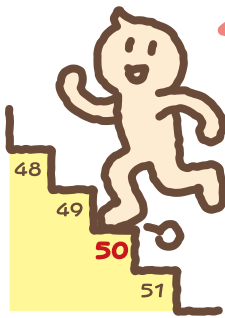
★公債費比率
7.6%は全国で
第50位です



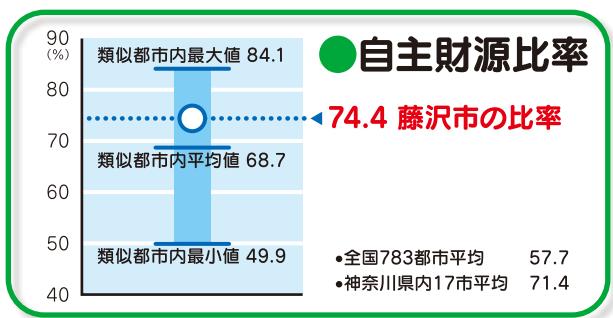
公債費比率は、借入金の返済に充てた市税などの一般財源の額が標準財政規模に対してどの位の割合になるかを表し、借入金返済の負担状況を示す指標です。一般的に健全な財政を保つためには、10%を超えないことが望ましいとされています。

藤沢市の公債費比率は7.6%で、全国783都市中では第50位に、県下17市では第3位にランクされます。

借金の状況を見る指標には、この他に実質公債費比率、公債費比率、公債費負担比率、起債制限比率、地方債現在高比率があります。



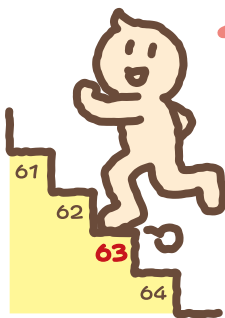
★自主財源比率
74.4%も全国で
第50位です



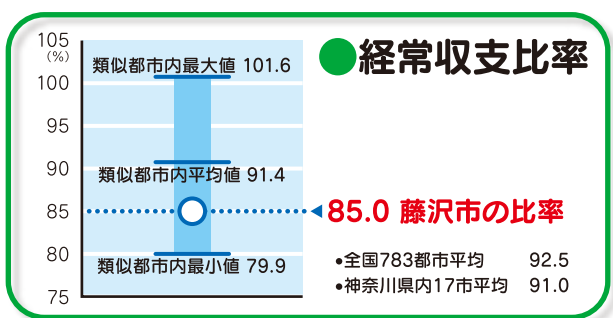
市税や使用料手数料などの自主財源が歳入全体に対してどの位の割合になるかを表し、財政の安定度や健全度を示す指標です。比率が高いほど財政基盤の安定性があります。

藤沢市の自主財源比率は74.4%で、全国783都市中では第50位に、県下17市では第6位にランクされます。

平成19年度は、市税や使用料手数料など自主財源が増加したことから、平成18年度の68.2%から74.4%に比率が上昇しました。



★財政の
硬直度を見る
経常収支比率は
85.0%で、全国
第63位



扶助費や人件費など経常的にかかる経費に対して、市税や各種交付金など経常的に市に入ってくる一般財源をどの位の割合で使っているかを表し、財政の弾力性や硬直度を見る指標です。

この比率が高いほど財源の余裕が少なくなり、政策的に使えるお金が少なくなります。

藤沢市の経常収支比率は85.0%で、全国783都市中では第63位に、県下17市では第2位にランクされます。

平成19年度は、扶助費や人件費など経常的にかかる経費が増加しました。また地方譲与税や地方特例交付金の減など経常的に入ってくる一般財源の額が減少したことから、平成18年度の81.9%から85.0%に比率が上昇しました。